

Tokyo Motor Show

No.19

東京モーターショーニュース

2003年10月29日発行

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 日本赤十字社

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 日本赤十字社

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 日本赤十字社
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 日本赤十字社
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 日本赤十字社
TEL:03-211-8001 FAX:03-211-8001 E-MAIL:tokyomotoshow@redcross.or.jp

JAMA



28日(火)は朝から雨、午後になっても降り続いたが、来場者の出足は順調。この日もビジネスマン風の中高年層が多く見られた。日本赤十字社による献血・骨髄バンクコーナーが中央救護所(北ホール南側)の2階に設けられているが、献血を訪れる人や、骨髄バンクへの登録希望者が多く、担当者は「東京モーターショーはどの場所よりたくさんの方が来てくれる」と喜んでた。



キーワードは

「自由発想 自在技術」

「Newオデッセイから始まる新チャレンジ」



HONDA

「ホンダらしさを取り戻そう」——。今年6月トップに就いた福井威夫新社長の第一声である。

今回のショーでは“The Power of Dreams”をグローバルスローガンに掲げて、既成概念にとらわれない“自由な発想”と革新的な“自在技術”から生まれるコンセプトモデルなどを通じ、“ホンダらしさ”を力強く提案している。



「いらっしゃいませ。ホンダブースへようこそ」・・・。
正面インフォメーションカウンターのなかで、案内係の女性とともに、来場者を誘導する人間型ロボット「ASIMO」。

小泉首相訪欧ではプラハの晩餐会に出席するなど国際舞台で大活躍しているだけに、会場での接客のマナーも手慣れたもの。ショーの期間中、休憩タイムもなく、フル稼働するそうだ。

HONDA

西ホールにあるホンダブース。今回の展示車両は4台の参考出品車を含め21台。展示コーナーを「Newオデッセイ/ASM」、「コンセプトカー」、「先進技術」、「モータースポーツ」の4つのゾーンに分けて提案している。このうち、中央ステージの「Newオデッセイ/ASM」ゾーンには、ショーの開幕直前に発表した東京モーターショー特別仕様車と、高い質を追求した新しい8人乗りの大型ミニバン「ASM」のコンセプトモデルに、来場者の関心を集めている。「Newオデッセイ」は低床プラットフォームの採用など、ホンダ独自の革新技術を結集させた自信作と言われているだけに「発表（10月17日）後、わずか2週間で1万台を超える予約注文を受けた」と、福井社長も太鼓判を押す。ブース内ではボディの高さを比較してみたり、シートに腰掛けて広い空間を確認する来場者も多くみられた。また「ASM」をベースとした上級ミニバンを来年春に発売を予定しており、「Newオデッセイ」同様に話題を呼びそうだ。



ミッドシップスポーツのコンセプトカー「HSC」



風のように爽やかな走りをするハイブリッドシステム搭載の「IMAS」



乗用車としての高い質を追求した大型ミニバンの「ASM」



新次元のプレミアムセダンの燃料電池車「KIWAMI」(極)



佐藤琢磨選手の起用など、話題の多いモータースポーツゾーン



独自技術の結晶ともいえる先進技術ゾーン

近未来のプレミアムセダンなどをアピール

コンセプトカーゾーンでは、技術展示的な要素が強く、自由な発想と革新の技術を融合させた未来のクルマを提案している。

「KIWAMI」(極)は、世界で初めて燃料電池車を実用化したホンダのFC(燃料電池)を使用した近未来のプレミアムセダンをアピールしたモデル。低車高、低フロアという燃料電池車としては独特なフォルムを持ち、燃料電池が小型化されたときのイメージを表現している。

「IMAS」は、ホンダが「インサイト」などに採用しているハイブリッドシステム「IMA」を搭載する次世代スポーティカー。車両重量700kg、CD値0.20というきわめて低い空気抵抗値の超軽量ボディに搭載することで、リッター40キロ以上の低燃費とスポーティな走りを両立させた。自転車で風を切って走るような爽快感をもたらしてくれるという。またこのゾーンでは、ミッドシップスポーツのコンセプトカー「HSC」にも、若者を中心にひとときわ熱い視線を集めている。

ホンダのブースでは、コンセプトカーばかりでなく、衝突安全技術や歩行者傷害軽減技術、燃料電池車などの環境性能技術などを紹介する先進技術ゾーン、F1カーをはじめとするモータースポーツゾーン、インターナビコーナーなど、多彩な展示が目を引く。

色鮮やかにデザイン王国のテイスト競う

外国車展示ブース



ユニークMPV含めコンパクトモデルでアピール

フィアット

コンパクトなモデル3台を展示するFiat Autoのフィアットブース。独特なデザインの2列シートながら6名乗車のMPV「マルチプラ」も注目車だが、「プント」の新型モデルが日本初お目見え。

新型デザインでは、フロントマスクを落ち着いた印象に一新、コンパクトなハッチバック・ボディはやや大きくなっている。

色鮮やかな「イタリアン・イエロー」の「プントHGT」は1.7リッター5MTのスポーツバージョン、1.2リッターATの「プントエモーションスピードギア」はスタンダードモデルで、参考出品ながら市販もされることになりそう。



フロントマスクを一新した新型「プントHGT」



コンセプト・スポーツからサルーンまで多彩な展示

アルファロメオ

アルファロメオは、Fiat Autoコーナーの大部分を占める意欲的な展示。9台の展示車の中で日本に初めてお目見えする参考出品は4台で、コンセプトカー「8Cコンペティツィオーネ」とベルトーネデザインの新型「アルファGT」、市販予定モデルのジウジアーロデザイン「アルファ166 3.0 V6 24V スポルトロニック」と「アルファ147 2.0 TS」など多彩である。

このうち、「8Cコンペティツィオーネ」は、ややレトロ調のイメージながら、エレガントななかにもスポーティな感じが伝わり、イタリアンデザインの真髄を感じさせる。V8・4.2リッターを搭載、400馬力以上を発揮する。



サーキットを席卷したFRアルファ復活を予感させる「8C」

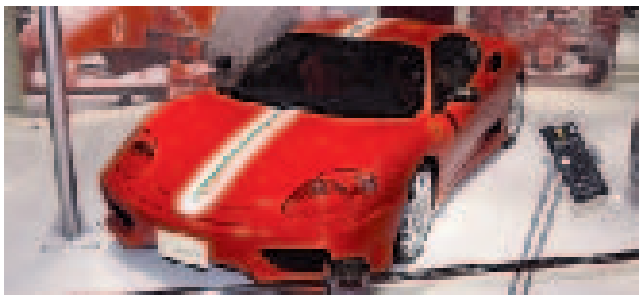


ピュアスポーツカーの魅力あふれるブース

フェラーリ

フェラーリの展示ブースには、4台のピュアスポーツカーが並ぶ。すでに大きな関心を集めている「575MマラネロF1」と「360F1スパイダー」もさることながら、来場者の関心の的は参考出品の「チャレンジストラダレ」と「エンツォ フェラーリ」の2台である。

中でも、真っ赤なボディにイタリア国旗をモチーフとしたストライプをボンネットからルーフに乗せた印象的なモデル「チャレンジストラダレ」は、「360」をベースに徹底した軽量化を実現、レースカーのポテンシャルを体験できるオンロードスポーツである。



レースカーのポテンシャルを秘めた「チャレンジ ストラダレ」



新モデル投入を印象づける展示

マセラティ

マセラティブースで異彩を放つラグジュアリーなスポーツサルーンの新型「クアトロポルテ」。ピニンファリーナデザインによって、現代的なイメージを色濃くした。レーシングカーの分野でも高い実績を持つマセラティのフラッグシップとして、一段と風格を増している。

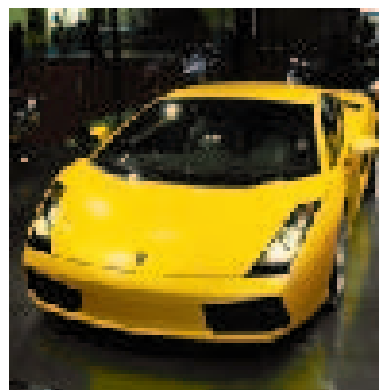


時速275kmも可能な「クアトロポルテ」



強烈なインパクト与える2モデル ランボルギーニ

シャープで印象的なシルエットが魅力のランボルギーニは、東京モーターショーに「ムルシエラゴ」と「ガヤルド」を展示、強烈なインパクトを与えている。日本に初お目見えした「ガヤルド」はV10・5リッターを搭載、V12・6.2リッターの「ムルシエラゴ」に比べてコンパクトながら、ミッドシップ・4WDは同じだ。



コンパクトサイズで登場した「ガヤルド」

自動車業界電子商取引 データ交換の標準化推進



◆講師とテーマ

- 塩沢敬和氏(トヨタ自動車) **「自動車業界EDI標準化活動の取り組み」**
 - 木下修一氏(日産自動車) **「EDI標準導入事例紹介・自動車メーカー」**
 - 守田 進氏(カルソニックカンセイ) **「EDI標準導入事例紹介・部品メーカー」**
 - 寺尾克志氏(本田技研工業) **「標準化活動の今後の展望」**
- 総合司会 金子淳史氏(日産自動車)

自動車業界では、自動車メーカーと部品メーカー間の部品などの注文、出荷、受領、請求、支払いなどに関する一連の情報伝達を、電話やFAXに代わって電子情報としてネットワークを通じて交換する「EDI」のシステムについて国際標準化を視野に入れた活動を展開している。

EDI標準化は自動車業界のEDIネットワークとメッセージの一元化(JNXの構築)につながり、効率化や関係するコストの削減が期待されている。

シンポジウムでは、「自動車業界全体のメリットになる高効率化の推進」というポリシーをもとに、標準化の取り組みに始まり、導入事例の紹介とともに、導入の効果や今後の課題などが紹介された。あわせてEDI標準化の今後の方向性として、グローバル化、材料・資材など関係分野への拡大、標準化対象情報の拡大などの活動強化も説明された。

会場には自動車メーカーや部品メーカー関係者が多数訪れ、熱心にメモを取る姿が見られた。



塩沢敬和氏



交通事故と救命救急医療

- パネリスト 関根和弘氏(千葉県野田市野田消防本部救急救命士)
大橋秀幸氏(交通事故総合分析センター主任調査員)
三宅康史氏(昭和大学医学部助教授)
松本尚氏(日本医科大学付属千葉北総病院救命救急センター医師)
- 司 会 有賀徹氏(昭和大学医学部教授)

外傷センター(救命救急センター)の認知を(三宅氏)

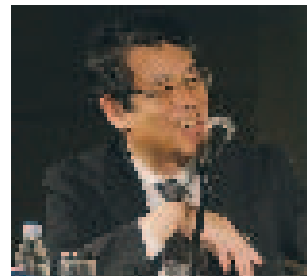
【関根氏】 事故にあった場合、適切な処置をして病院に運ばれなかった人の40%は助かっていたという。事故が起きたとき、110番だけでなく、119番への通報を忘れないように。

【大橋氏】 シートベルトやエアバッグの不適切な使用によって傷を負うことが多い。シートベルトは正しく締める。事故はおきるもの。運転に集中しなさい。

【三宅氏】 軽いケガは開業医、これは1次。頭を打って気持ち悪い時などは総合病院へ、これは2次。命に関わる時は外傷センター、これが3次。外傷センターはまだ認知度が低い。国から認めてもらいたい。

【松本氏】 初期治療がうまくいっても、その後、適切な病院への搬送が必要。生存の確率は年齢、意識の有無、呼吸状態などで左右されるが、病院側が改善努力をすることで生存率を上げることができる。

【有賀氏】 交通事故がゼロになることはない。事故に遭わない努力はしているが、遭ったらどうするかという対策をしていない。様々な業界の方が協力していく必要がある。



有賀徹氏

TOPICS

ベッカム人気で ブースは超満員

スポンサーシップ・プログラム 翼システム

アンケートを書くにあの“ベッカム”様の写真が入ったクリア・ファイルがもらえるとあってブースは人、人、人。スポンサーシップ・プログラムに参加した翼システムのブース。新たな事業であるリニューカーのキャラクターとしてベッカムさんと向こう3年間のCM契約を結んだとか。壁に大きなベッカムさんの写真。リニューカー=ベッカムの作戦を展開中。

リニューカーは車のリフォーム(翼システム・徳富良氏)。今回はリニューカーに対する一般の理解を深めるための参加。魅力的なキャンペーン嬢もいてブースは混雑。狙いはるかに上回る成果を上げている。



今日のイベント(予定)

★ シンポジウム

- 14:00~16:30 **次世代の自動車社会の構築を目指して**
~今後の低公害車と燃料電池自動車の開発・普及の方向性~
(国際会議場2F・国際会議室)
- 14:00~17:30 **事故死半減を目指して**
~事故を見つめ広い視点と知恵で安全・安心~
(国際会議場2F・201号室)

★ Bay FM

11:15~11:45 フェスティバルパーク(西休憩ゾーン)

★ フィエスタ・マリスコス

13:00~13:30
15:00~15:30
17:30~18:00 } フェスティバルパーク(西休憩ゾーン)

★ トライアル2輪デモ

13:45~14:45
15:45~16:45 } フェスティバルパーク(西休憩ゾーン)

★ クリーンエネルギー車同乗試乗会

10:30~16:30 環境体験ランド(幕張海浜公園)

10月28日の入場者数 **75,500**人

入場者数合計 **474,600**人

販促手法に迷っている皆様へ。
ココで“抜け道”を見つけてください。

▼ 新たな情報活用の世界に通じます。オンデマンド印刷について詳しくは...

DocuPlaza (ドキュプラザ) <http://www.docu-plaza.com/>

Color DocuTech 60

機材協力：富士ゼロックス株式会社
用紙協力：富士ゼロックスオフィスサプライ株式会社
このニュースは「Color DocuTech 60」で、再生コート紙「eCOAT105」に出力しています。

eCOAT105
THE DOCUMENT COMPANY
FUJI XEROX